

ポイントを押さえた乳房炎対策を②

乳房炎は、乳牛の生産性低下に伴う経済的損失だけでなく、作業者の精神的ストレスに繋がります。限られた労働力や作業環境のなかで乳房炎を予防するためには、主に右の3つのポイントが大切になります。

今回は「搾乳手法」について取り上げます。



乳頭先端の損傷は深刻な影響があります

乳頭先端の損傷は、乳房炎発症のリスクを高めます。乳頭に損傷があると乳頭清拭の際に牛が痛がるため、きれいに拭くことすらできません（＝搾乳刺激の不足）。さらに、黄色ブドウ球菌などの「細菌の棲み家」になってしまいます。

乳頭先端の損傷は、搾乳システムの異常（調圧器やパルセータの異常、高い真空圧など）のほか、**不適切な搾乳手法**によっても生じます。



初産牛に生じた乳頭先端の損傷

搾乳作業でとくに大切なこと

乳頭損傷を減らし、乳房炎発症のリスクを下げるために、良質乳生産者が搾乳作業のなかで共通して行っている大切なことを、以下にまとめました。



乳頭をとにかく拭く（搾乳刺激をしっかり与える）

とくに、乳頭口には多くの神経が分布しており、「拭く」という行為は、オキシトシンを分泌するための強烈な搾乳刺激になります。



過搾乳は絶対にしない

乳頭が膨らむ前の早すぎるユニット装着、分房に乳がない状態での過度な搾乳は、乳頭にかかる真空圧が高くなり、乳頭先端を傷つけます。
※過搾乳の多くは、搾乳初期に起きているといわれています。乳頭清拭など搾乳刺激の大切さが分かります。



ユニット離脱直後の確実なポストディッピング

ディッピングによって乳頭を殺菌します。乳頭全体が浸るように確実に行います。乳頭全体のディッピング剤での浸漬は、乳房炎予防にとって極めて大切な作業です。

ポイントは、十二分な搾乳刺激と過搾乳の防止により乳頭先端を損傷させないこと、確実なディッピングにより乳頭を殺菌することです。

牛は変化を嫌います。作業員全員で同じ作業を行うことが大切です。

H28 年度発行の営農改善資料「乳房炎を予防しよう」に詳細を掲載していますので、再度ご確認ください